

2023/2024 スピードスケート国際競技会派遣選手選考基準

~~ワールドカップにおける実施種目や日本の出場枠に関連したルールなど、詳細は国際スケート連盟 (ISU) によって後日通知される予定である (発表日未定)。これを受けて、本選考基準のうち ISU から通知されるルールに適合しない部分は変更される場合がある。~~

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化部委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟 (ISU) によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の各種目出場枠数
 - ・ 四大陸スピードスケート選手権大会、世界スピードスケート選手権大会及び世界オールラウンド・スプリントスピードスケート選手権大会の特別参加資格ランキングリスト (SQRL)
 - ・ 各国際競技会の参加標準記録 (後述)
 - ・ 国や関係団体からの制限
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣 B 標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
- ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 本選考基準において、JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。また、ここでの選考は、強化部委員会の出席者 (選考の対象とされる選手

と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く)の3分の2以上の多数をもって変更することができる。

- 代表選手の決定後、ケガや病気などによって大会への参加が困難だと判断された場合は、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、派遣リザーブリスト(後述)に登録をされた選手と入れ替える場合がある。その場合、強化スタッフに登録されたスポーツドクターの診断・見解を参考に検討する。
- 前年度または今年度本連盟主催競技会、およびISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会(高地リンク除く)において今年度の派遣SS標準記録を上回った者が、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、新型インフルエンザ等対策特別措置法その他の法令による公的な規制により対象競技会への参加ができない状況となった場合、選考方針を踏まえた総合的な検討によって、下記に従って選考された者に変えて、選考する場合がある。なお、この場合の選考対象種目は、今年度の派遣SS標準記録を上回った種目に限る。

- ワールドカップ第1戦帯広大会(11/10~12、500m①②・1000m・1500m・女子3000m ~~または5000m~~・男子5000m ~~または10000m~~・Ms・TP ~~またはTS~~・MGR)・第2戦北京大会(11/17~19、500m①②・1000m・1500m・女子3000m ~~または5000m~~・男子5000m ~~または10000m~~・Ms・TP ~~またはTS~~)・第3戦スタヴァンゲル大会(12/1~3、500m・1000m・1500m・女子 ~~3000m~~ ~~または5000m~~・男子 ~~5000m~~ ~~または10000m~~・Ms・TP ~~またはTS~~)・第4戦トマショフマゾウイエツキ大会(12/8~10、500m①②・1000m・1500m・女子3000m ~~または5000m~~・男子5000m ~~または10000m~~・Ms・TP ~~またはTS~~)

※ Ms(マススタート)、TP(チームパシュート)、TS(チームスプリント)、MGR(男女混合ミックスチームリレー)

~~※実施される競技種目は未定~~

※ ①②の記載距離は1大会で2回レースが実施される。

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会における日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m(5)、1000m(5)、1500m(5)、5000m(5)、10000m(5)、Ms(2)、TP(1)、TS(1)

女子：500m(5)、1000m(~~5~~4)、1500m(5)、3000m(5)、5000m(5)、Ms(2)、TP(1)、TS(1)

男女混合：MGR(1)

~~※上記枠数は未定~~

【選考基準】

対象競技会：第30回全日本スピードスケート距離別選手権大会

※ 選考は、距離別選手権部門のみを対象とする。

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m及び男子5000mの出場枠のうちそれぞれ

れ最大枠数から 1 を減じた数の派遣選手は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。

残りの派遣選手は、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度及び今年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。

- (2) 女子 5000m 及び男子 10000m の出場枠のうち、それぞれ最大枠数から 1 を減じた数の派遣選手は、対象競技会における女子 3000m または男子 5000m の順位に従い、最上位者から順に選考する。

残りの派遣選手は、すでに選考された者を除く選手の中で、女子 5000m 及び男子 10000m における最上位者を選考する。

ここまでで最大枠数に達しない場合は、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、対象競技会当該種目への参加資格を有していた、かつ対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度及び今年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する場合があります。

- (3) 男女チームパシュートの正選手各 3 名と補欠選手各 1 名は、対象競技会にエントリーしている選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。

また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手 1 名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は 2 番目とする）。

- (4) 男女マススタートの正選手各 2 名及び補欠選手各 1 名の合計各 3 名のうち、男女各 1 名は、男子については 1500m または 5000m、女子については 1500m または 3000m のいずれかで派遣 B 標準記録以内の選手かつ、対象競技会における当該種目優勝者を選考する。

残りの各 2 名または 3 名（ここで 3 名を選考する場合はマススタート種目優勝者が選考されなかった場合）は、派遣 B 標準記録以内の有無は問わずに対象競技会において当該種目にエントリーしている選手の中から選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、総合的な検討を加えながら選考する。

上記各 3 名の正選手・補欠選手の別及びエントリー順は、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により定める。

- (5) 男女チームスプリント及び男女混合ミックステームリレーは、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合があります。

- (6) 当該派遣選手団の選考に至らなかった次点者を、男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m 及び男子 10000m についてはそれぞれの種目において男女各 2 名まで、男女マススタート及び男女チームパシュートについては 2 種目合わせて男女各 3 名まで、派遣リザーブリスト登録者として選考する場合があります。

(7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第1戦帯広大会への派遣のみに際し、日本スケート連盟による派遣 B 標準記録（後述）は適用しない。
- ・ ワールドカップ第1戦における各種目のエントリー順は、ISU ワールドカップ参加標準記録（後述）の達成を示すための、エントリー時に所持している記録順によるものとする。
- ・ ワールドカップ第3戦及び第4戦の男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m または 5000m、男子 5000m または 10000m については、上記 (1) および (2) により選考された選手が、ワールドカップ第2戦終了時 SQRL^{注1}に記載される成績（リザーブリストを含む）を残せなかった場合、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による必要性の判断に応じて、当該種目の補欠又は派遣リザーブリスト登録者として入れ替えを行う場合がある。
- ・ 各ワールドカップの男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。
- ~~・ 前年度の本連盟主催競技会において今年度の派遣 SS 標準記録を上回った者が、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、新型インフルエンザ等対策特別措置法その他の法令による公的な規制により対象競技会への参加ができない状況となった場合、選考方針を踏まえた総合的な検討によって、上記【選考基準】に従って選考された者に変えて、選考する場合がある。なお、この場合の対象は、今年度の派遣 SS 標準記録を上回った種目に限る。~~

※注1「第2戦終了時 SQRL」について

ワールドカップ第6戦終了時に SQRL が ISU から公表されるが、ワールドカップ第2戦終了時に途中経過の SQRL が公表されるかどうかは不明である。よって、ISU から第2戦終了時に速やかに公表されない場合、本連盟強化部が ISU の SQRL 作成規則に則り独自に作成したものを「第2戦終了時 SQRL」として代替利用する場合がある。また、昨年度の記載方式と大きく変更が生じた場合は、昨年度の記載方式に基づいて代替利用する場合がある。

~~上記以降の国際競技会における選考基準は、ISU による国際大会の詳細に関する通知がなされた後に決定する。~~

2. 四大陸スピードスケート選手権大会（1/19～21、アメリカ・ソルトレークシティー）

【選考方針】

四大陸スピードスケート選手権大会で日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

男女各最大 10 名

【枠数】

ワールドカップ第1～4戦までのポイントランキング及びタイムランキング（SQRL）により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、5000m（3）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

女子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、3000m（3）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

【選考基準】

対象競技会：ワールドカップ第1～4戦、第91回全日本スピードスケート選手権大会

※ 第91回全日本スピードスケート選手権大会での全ての部門（距離別部門、オールラウンド総合部門およびスプリント総合部門）の記録を対象競技会で得られた記録として採用する。スプリント総合部門に出場する選手で同一距離に2レース以上出場する場合には、いずれか一方の良い記録を採用することとする。

- (1) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、当該種目のワールドカップ第5～6戦日本代表選手を選考する。

また、必要に応じて、他の基準で選考された派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は2番目とする）。

- (2) 枠数の範囲内で、ワールドカップ第1～4戦において、DivisionAで3位以内の成績を2回以上（500mは3回以上）収めた選手を、当該種目の代表に選考する（チームパシュート、マススタートおよびチームスプリントは除く）。

この方法による選考は、各種目最大2名までとし、該当選手が3名以上いる場合には、各該当選手の成績上位2レースの順位の平均値を比較して優劣を決する。

それでも優劣が決しない場合は、第91回全日本スピードスケート選手権大会での当該種目の記録で優劣を決することとする。

また、この方法による選考は男女各最大6名までとし、該当選手が7名以上いる場合には、各該当選手の上記成績を収めた種目の成績上位2レースの順位の平均値を比較して優劣を決する。

それでも優劣が決しない場合は、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考する。

- (3) 上記(1)及び(2)で選考された選手以外については、ワールドカップで発揮された競技力の高い種目に優先的に派遣するため、以下の手順で、男女各最大10名に達するまで、選考する。

- ① 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000m及び男女マススタートの全距離を含んだ第4戦終了時個人種目合算ランキングリスト（合算リスト）^{注2}を作成する。

- ② 上記(2)で選考された選手がいた場合、当該選手を、合算リスト上の当該選手が選考された種目の上位の枠に充てる（その種目のその枠は使用済とする）。

- ③ 合算リストの上位枠から順に、ワールドカップ第5～6戦日本代表選手を、選考された種目を対象として、第91回全日本スピードスケート選手権大会における当該種目の記録上位者から選考する。

同一記録の選手が複数名いる場合は、距離別部門に出場した選手を優先して選考する。

それでも優劣が決しない場合は、第4戦終了時SQRL^{注3}の上位者を優先して選考する。

マスタートの枠について、1 番目の枠は第 4 戦終了時 SQRL の最上位者を選考する。2 番目の枠はワールドカップ第 5～6 戦の当該種目日本代表選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考する。

- (4) 男女チームスプリントは、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

※注 2 「第 4 戦終了時個人種目合算ランキングリスト（合算リスト）」について

合算リストは次の手順で作成する。

- ① ワールドカップ第 1～4 戦のそれぞれにおける、男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男子 5000m の DivisionA および B の全レースを対象として、種目ごとにタイムランキングを作成する。
- ② 出場選手ごとに、①のタイムランキングの順位の中央値及び平均値を求め（算出方法詳細は下記*参照）、いずれか良い方の値を当該種目における「合算リスト用の値」とする。ただし、男女マスタートにおいては、各大会決勝の順位、または決勝に進めなかった大会準決勝での出場組順位に 2 を乗じて 1 を減じた値の中央値及び平均値を「合算リスト用の値」とする。
*それぞれの種目における中央値及び平均値の算出に使用するレース数（データ数）は下表の通りとし、各選手の好成績のレースから必要データ数の分だけ抽出することとする。なお、DivisionA および B の全レースを対象としたタイムランキングの作成において、出場辞退・棄権（途中棄権含む）・失格はいずれも当該レース出場者における最下位（タイムを有する者の次の順位）として扱う（マスタートは決勝に進んだ大会では決勝の最下位として、決勝に進めなかった大会では準決勝出場組の最下位として扱う）。

	男女 500m	男女 1000m	男女 1500m	女子 3000m	男子 5000m	男女 マスタート
ワールドカップ第 1～4 戦実施レース数	7	4	4	3	3	4
中央値及び平均値算出使用レース数	4	2	2	2	2	2

※例えば、ワールドカップ（WC）第 1～4 戦の男子 500m における各レースのタイムランキングが次の通りであった場合、次の通り中央値及び平均値は算出され、合算リスト用の値が決定される。

	WC 第1戦 ①	WC 第1戦 ②	WC 第2戦 ①	WC 第2戦 ①	WC 第3戦	WC 第4戦 ①	WC 第4戦 ②	中央値	平均値	合算リ スト用 の値
日本選 手①	1	6	1	52	1	25	10	1	2.25	1
日本選 手②	3	12	7	7	7	15	10	7	6	6
日本選 手③	5	6	9	29	38	30	39	7.5	12.25	7.5

- ③ 各種目の合算リスト用の値を集約し、種目を問わず値のより小さい選手を上位として順に並べ、並べた後、各順位の選手とその選手がその成績を取めた種目とを置き換えたリストを作成する（次の仮の結果による表の左側半分）。この種目順位に、本文（3）②以下を適用する（次の表の右側半分）。

表. 仮の前提として、最大出場可能枠数を獲得・上記(1)で選考された選手は上記(3)で選考されない・上記(2)で選考された選手はなし・男子、とした合算リスト

合算リスト 順位	該当種目 とその枠順	各種目合算 リスト用の 値	選考される選手 (全日本スポーツス ケート選手権後)	備考
1	500m 1 枠目	4	A 選手	
2	500m 2 枠目	5	B 選手	
3	マススタート 1 枠目	6	C 選手	
4	500m 3 枠目	7.5	D 選手	
5	1000m 1 枠目	15	A 選手	既出選手
6	1500m 1 枠目	17	E 選手	
	500m 4 枠目	17.5	-	既に 500m は上限の 3 枠到達
7	5000m 1 枠目	18	F 選手	
8	1000m 2 枠目	20	-	合算リスト順位 7 位で派遣人数 10 名到達のため、この順位以降 では選考されない

※補欠起用として出場したレースであっても、当該レースは合算リスト用の値の算出対象とする。

※使用レース数が足りない場合、不足しているレースは当該レース出場者における最下位の次の順位として扱う（マススタートは当該種目出場者数に 1 を加えた値を代用し、順位とする）。

※本選考基準でのタイムランキング作成においては、100 分の 1 秒までのタイムを適用し、この定義の下に同タイムであった場合は同順位として扱う（100 分の 1 秒表記でのタイムが同タイムであった場合にのみ ISU によって適用される 1000 分の 1 秒の値は本選考基準におけるタイムランキング作成では使用しない）。

※合算リスト用の値が同じ値であった場合、合算リスト用の値として採用しなかった中央値又は平均値のいずれか一方の値を比較し、優劣を決する。この値も同じであった場合は、該当選手がその該当する種目における第 4 戦終了時 SQRL の順位を比較し、優劣を決する。

※注3「第4戦終了時 SQRL」について

ワールドカップ第6戦終了時に SQRL が ISU から公表されるが、ワールドカップ第4戦終了時に途中経過の SQRL が公表されるかどうかは不明である。よって、ISU から第4戦終了時に速やかに公表されない場合、本連盟強化部が ISU の SQRL 作成規則に則り独自に作成したものを「第4戦終了時 SQRL」として代替利用する場合がある。また、昨年度の記載方式と大きく変更が生じた場合は、昨年度の記載方式に基づいて代替利用する場合がある。

3. ワールドカップ第5戦ソルトレークシティー大会（1/26～28、500m・1000m①②・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP・MGR）・第6戦ケベック大会（2/2～4、500m①②・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TS）

※ ①②の記載距離は1大会で2回レースが実施される。

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会（距離別）における日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m（5）、1000m（5）、1500m（5）、5000m（5）、10000m（5）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）
女子：500m（5）、1000m（4）、1500m（5）、3000m（5）、5000m（5）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）
男女混合：MGR（1）

【選考基準】

対象競技会：ワールドカップ第1～4戦、第91回全日本スピードスケート選手権大会

※ 第91回全日本スピードスケート選手権大会での全ての部門（距離別部門、オールラウンド総合部門およびスプリント総合部門）の記録を対象競技会で得られた記録として採用する。スプリント総合部門に出場する選手で同一距離に2レース以上出場する場合には、いずれか一方の良い記録を採用することとする。

- (1) ワールドカップ第1～4戦において、DivisionAで3位以内の成績を2回以上（500mは3回以上）収めた選手を、当該種目の代表に選考する（チームパシュート、マススタートおよびチームスプリントは除く）。
最大枠数を超えて該当選手がいる場合は、各該当選手の成績上位2大会の順位の平均値を比較して優劣を決する。
それでも優劣を決しない場合は、第91回全日本スピードスケート選手権大会の当該種目の記録で優劣を決することとする。
- (2) 上記(1)で選考された選手が最大枠数に達しない場合は、上記(1)で選考された選手を除き、第4戦終了時 SQRL 掲載選手（リザーブリスト含む）を最上位者から順に選考する。
- (3) 上記(2)までで選考された選手が最大枠数に達しない場合には、上記(1)と(2)で選考された選手を除き、第91回全日本スピードスケート選手権大会において派遣S標準記録以内の選手は、当該種目につい

て各種目最大枠数に達するまで選考する。

また上記(2)までで選考された選手が最大枠数に達したが、上記(2)で選考された選手の中に、選考された種目において、第91回全日本スピードスケート選手権大会で派遣S標準記録を達成しなかった選手がいて、上記(1)と(2)で選考された選手以外で、第91回全日本スピードスケート選手権大会において派遣S標準記録以内の選手がいた場合、当該種目について、派遣S標準記録を達成しなかった選手で第4戦終了時SQRLが最下位である選手と、派遣S標準記録を達成した選手の中で、同大会の当該種目の成績が最上位の選手を入れ替えて選考する。

- (4) 上記(1)から(3)までで最大枠数に至らない場合、上記(1)から(3)で選考されなかった、かつ本年度派遣B標準記録以内の記録（対象：本年度本連盟主催競技会またはワールドカップ第1～4戦）を持つ選手の中で、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針等を総合的に考慮して選考すべき選手、と判断された場合、選考する場合がある。
- (5) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名はワールドカップ第1～4戦の当該種目にエントリーした選手（補欠含む）、及び第91回全日本スピードスケート選手権大会にエントリーしている選手の中から、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。
また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は2番目とする）。
- (6) 男女マススタートの正選手各1名は、第4戦終了時SQRL最上位者を選考する。各補欠選手含めた残りの派遣選手は、ワールドカップ第1戦～4戦の当該種目に出場した選手および、第91回全日本スピードスケート選手権大会の当該種目にエントリーしている選手の中から、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考する。
- (7) 男女チームスプリント及び男女混合ミックsteamリレーは、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (8) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中における練習状況などを総合的に検討し、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。

4. 世界スピードスケート選手権大会（2/15～18、カナダ・カルガリー）

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～6戦までのポイントランキング及びタイムランキング（SQRL）により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、5000m（3）、10000m（2）、Ms（2）、TP、TS

女子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、3000m（3）、5000m（2）、Ms（2）、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：ワールドカップ第1～6戦、第91回全日本スピードスケート選手権大会

※ 第91回全日本スピードスケート選手権大会での全ての部門（距離別部門、オールラウンド総合部門およびスプリント総合部門）の記録を対象競技会で得られた記録として採用する。スプリント総合部門に出場する選手で同一距離に2レース以上出場する場合には、いずれか一方の良い記録を採用することとする。

(1) 枠数の範囲内で、ワールドカップ第1～4戦において、DivisionAで3位以内の成績を2回以上（500mは3回以上）収めた選手を、当該種目の代表に選考する（チームパシュート、マススタートおよびチームスプリントは除く）。

この方法による選考は、各種目最大2名までとし、該当選手が3名以上いる場合には、各該当選手の成績上位2レースの順位の平均値を比較して優劣を決する。

それでも優劣が決しない場合は、第91回全日本スピードスケート選手権大会での当該種目の記録で優劣を決することとする。

(2) 上記(1)で選考された選手を除き、ワールドカップ第1～6戦のワールドカップ競技力^{註4}最上位者から順に、最大枠数に至るまで選考する（女子5000m、男子10000m、チームパシュート、マススタート、およびチームスプリントは除く）。

(3) 女子5000m、男子10000mの各代表選手について、第91回全日本スピードスケート選手権大会において派遣S標準記録以内で最上位の選手を選考する。該当者がいない場合および残りの枠は、SQRLに掲載された最上位者から順に選考する。

(4) 男女チームパシュート代表選手（補欠含む）は、本年度ワールドカップの当該種目にエントリーした選手（補欠含む）及びワールドカップ第5～6戦日本選手団の中から、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。

(5) 男女マススタート代表選手は、ワールドカップ当該種目出場選手の中から選考する。男女各1名は、ワールドカップ第1～6戦で、2回以上決勝に進出した選手を選考する。

複数名の該当選手がいる場合には、上位2大会の決勝順位の平均値を比較して優劣を決する。

それでも優劣が決しない場合は、上位3大会の決勝順位の平均値で優劣を決することとする。

残りの枠は、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。

(6) 男女チームスプリントは、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・SQLR におけるリザーブリストの活用による出場枠の再配分がなされた場合、この時点において、出場可能な選手を、移動にかかる時間的な制限（フライト予約等）を含めて総合的な検討を加えながら、選考する場合がある。
- ・男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況およびコンディション状況等を総合的に検討し、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。

※注4「ワールドカップ競技力」について

男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男子 5000m においては、ワールドカップ第 1～6 戦のそれぞれについて、種目ごとに DivisionA および B の全レースを対象としたタイムランキングを作成する。その後、出場選手ごとに、ワールドカップ第 1～6 戦におけるタイムランキングの順位の中央値及び平均値を求め（算出方法詳細は下記参照）、いずれか良い方の値を当該種目におけるワールドカップ競技力とする。

※それぞれの種目における中央値及び平均値の算出に使用するレース数（データ数）は下表の通りとし、各選手の好成績のレースから必要データ数の分だけ抽出することとする。なお、DivisionA および B の全レースを対象としたタイムランキングの作成において、出場辞退・棄権（途中棄権含む）・失格はいずれも当該レース出場者における最下位（タイムを有する者の次の順位）として扱う。

	男女 500m	男女 1000m	男女 1500m	女子 3000m	男子 5000m
ワールドカップ第 1～6 戦実施レース数	10	7	6	5	5
中央値及び平均値算出使用レース数	5	3	3	2	2

※例えば、ワールドカップ第 1～6 戦の男子 1500m における各レースのタイムランキングが次の通りであった場合、次の通り中央値及び平均値は算出され、ワールドカップ（WC）競技力が決定される。

	WC 第 1 戦	WC 第 2 戦	WC 第 3 戦	WC 第 4 戦	WC 第 5 戦	WC 第 6 戦	中央値	平均値	WC 競技力
日本選手①	1	3	1	52	21	24	1	1.67	1
日本選手②	3	12	7	7	8	9	7	5.67	5.67
日本選手③	6	6	9	8	14	11	6	6.67	6

※補欠起用として出場したレースであっても、当該レースはワールドカップ競技力の算出対象とする。

※使用レース数が足りない場合、不足しているレースは当該レース出場者における最下位の次の順位として扱う。

※本選考基準でのタイムランキング作成においては、100 分の 1 秒までのタイムを適用し、この定義

の下に同タイムであった場合は同順位として扱う（100 分の 1 秒表記でのタイムが同タイムであった場合にのみ ISU によって適用される 1000 分の 1 秒の値は本選考基準におけるタイムランキング作成では使用しない）。

※ワールドカップ競技力が同じ値であった場合、ワールドカップ競技力として採用しなかった中央値又は平均値のいずれか一方の値を比較し、上位者を優先する。この値も同じであった場合は、ワールドカップ競技力算出に用いた各レースにおけるタイムランキングを比較し、より上位のランキングを有する者を優先する。

5. 世界大学スピードスケート選手権大会（2/22～25、ノルウェー・ハーマル）

【選考方針】

世界大学スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待でき、将来オリンピック等国際大会でメダルが期待できる大学生選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

男女各 2 名

【枠数】

男子：500m（4）、1000m（4）、1500m（4）、5000m（3）、Ms（2）、TP（1）

女子：500m（4）、1000m（4）、1500m（4）、3000m（3）、Ms（2）、TP（1）

男女混合：ミックスチームリレー（1）

【選考基準】

対象選手は、世界大学スピードスケート選手権大会への参加資格を有する現役大学生とする。

対象競技会：第 91 回全日本スピードスケート選手権大会

※ 第 91 回全日本スピードスケート選手権大会での全ての部門（距離別部門、オールラウンド総合部門およびスプリント総合部門）の記録を対象競技会で得られた記録として採用する。スプリント総合部門に出場する選手で同一距離に 2 レース以上出場する場合については、いずれか一方の良い記録を採用することとする。

(1) 対象競技会において、派遣 SS 標準記録以内の選手、派遣 S 標準記録以内の選手、派遣 A 標準記録以内の選手、派遣 B 標準記録以内、派遣 B 標準記録以下の選手の順に、派遣可能人数に達するまで選考する（男子 10000m、女子 5000m、マススタートを除く）。

同水準の選手の優劣を決する必要がある場合、上位派遣標準記録（派遣 SS 標準記録以内の選手同士を比較する必要がある場合は派遣 SS 標準記録）への記録達成率枠数^{注 5}にて比較を行う。

それでも優劣を決しない場合は、対象競技会における他出場種目の成績にて上記と同様の比較を行う。

(2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ エントリー種目は、選考された選手の特性等を検討し、当該派遣選手団の監督が決定する。
- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

※注 5「記録達成率」の算出方法

- ・男子 500m 派遣 B 標準記録以内の記録 35,40 を持つ a 選手の場合
派遣 A 標準記録 34,95 が上位派遣標準記録となるため、 $34.95 \div 35.40 \times 100 = 98.73\%$ が記録達成率となる。
- ・男子 1000m 派遣 B 標準記録以内の記録 1.10,30 を持つ b 選手の場合
派遣 A 標準記録 1.09,33 が上位派遣標準記録となるため、 $69.33 \div 70.30 \times 100 = 98.62\%$ が記録達成率となる。
- ・a 選手と b 選手のいずれが優位か決めなければならない場合、記録達成率の高い a 選手が優位となる。

6. 世界オールラウンド・スプリントスピードスケート選手権大会（3/7～10、ドイツ・インツェル）

【選考方針】

世界オールラウンド・スプリントスピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

オールラウンド総合：男女各最大 3 名

スプリント総合：男女各最大 3 名

※ ワールドカップ第 1～6 戦の成績により、男女ともに最大 3 名までの出場枠が付与される。

チームスプリント：男女各 1 チーム

【選考基準】

対象競技会：ワールドカップ第 1～4 戦、第 91 回全日本スピードスケート選手権大会

※ 第 91 回全日本スピードスケート選手権大会での全ての部門（距離別部門、オールラウンド総合部門およびスプリント総合部門）の記録を対象競技会で得られた記録として採用する。スプリント総合部門に出場する選手で同一距離に 2 レース以上出場する場合には、いずれか一方の良い記録を採用することとする。

(1) それぞれの出場枠のうち 1 名の派遣選手は、ワールドカップ第 1～4 戦の全てのレースにおいて、各種目で最も良い記録であったタイムを使用し（同一大会でなくてよい）、オールラウンドでは 1500m と女子は 3000m・男子は 5000m のタイムの合計ポイント、スプリントでは 500m と 1000m のタイムの合計ポイントを算出し（ISU ルール第 265 条 3 項に従う）、それぞれその最上位者を選考する。

※合計ポイントで使用する 2 種目の記録は、必ずしも同大会での記録である必要はない。

(2) 残りの派遣選手は、(1) で選考された選手を除き、第 91 回全日本スピードスケート選手権における、オールラウンドでは 1500m と女子は 3000m・男子は 5000m のタイムの合計ポイント、スプリントでは 500m と 1000m のタイムの合計ポイントを算出し（ISU ルール第 265 条 3 項に従う）、それぞれその最上位者から順に、枠数に至るまで選考する。

(3) 男女チームスプリントは、出場枠を獲得した場合、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

【ISU ワールドカップ参加標準記録】

女子			男子		
	カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他		カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他
500m	39,50	40,00	500m	35,70	36,20
1000m	1.19,00	1.20,00	1000m	1.11,00	1.12,00
1500m	2.00,50	2.02,00	1500m	1.49,00	1.50,50
3000m	4.19,00	4.22,00	5000m	6.40,00	6.45,00
5000m	7.23,00 又は 4.11,00(3000m)	7.33,00 又は 4.14,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.28,00(5000m)	13.40,00 又は 6.33,00(5000m)

※ 対象競技会は、2022年7月1日以降に開催されたすべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本スピードスケート選手権大会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会とする。

※ マススタート、チームパシュート及びチームスプリントにエントリーするためには、少なくとも1つの参加標準記録を達成していなければならない。なお、これらの種目については、500mから10000mまでの上記参加標準記録を達成していなかったとしても、男女それぞれ最大1名のみ、特別の参加標準記録（1500mにおいて、女子は2.11,50、男子は1.59,00）を達成していればエントリーすることができる。

~~※ 上記の記録は2022/2023シーズンのものであり、2023/2024シーズン（今シーズン）のものはISUによって変更される場合がある。~~

【派遣標準記録】

女子					男子				
	SS 標準	S 標準	A 標準	B 標準		SS 標準	S 標準	A 標準	B 標準
500m	37,59	37,82	38,20	39,07	500m	34,61	34,74	34,95	35,43
1000m	1.14,59	1.15,36	1.16,13	1.17,98	1000m	1.08,64	1.08,93	1.09,33	1.10,41
1500m	1.56,08	1.56,79	1.57,82	2.00,67	1500m	1.45,65	1.46,01	1.47,04	1.48,84
3000m	4.03,77	4.05,57	4.08,15	4.15,10	5000m	6.17,54	6.21,89	6.24,52	6.31,40
5000m	6.57,66	7.00,32	7.08,75	7.19,63 又は 4.15,10 (3000m)	10000m	12.57,78	13.07,74	13.15,80	13.30,94 又は 6.31,40 (5000m)

※ 対象競技会は、2023年7月1日以降に開催された日本スケート連盟主催大会とする。なお、各国際競技会の選考基準において対象競技会が指定されている場合は、その内容に従う。

※ 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、2019年度及び2021年度WC（カルガリー・ソルトレークシティー、最終戦以外）の各種目1番目のタイムの平均値をSS標準、3番目のタイムの平均値をS標準、各種目8番目のタイムの平均値をA標準、各種目25番目のタイムの平均値をB標準とした。また、女子5000m、男子10000mについては、2018年度WCトマショフマゾウィエツキ大会、及び2019年度ヌルスルタン大会、及び2021年度スタヴァンゲル大会の各種目1番目のタイムの平均値をSS標準、3番目のタイムの平均値をS標準、各種目8番目のタイムをA標準、各種目20番目のタイム又は女子3000m、男子5000m各種目B標準の記録を、B標準とした。